

竹野町史

民俗  
文化財  
資料  
編





行道面

(桑野本区所有、  
兵庫県立歴史博物館写真提供)

(菩薩 1号面)



(僧形 B面)



(僧形 A面)



羽入観音寺本堂の六十六部笈仏



金原日吉神社の御神体と懸け仏

機織り(切浜・浜田とめ氏)





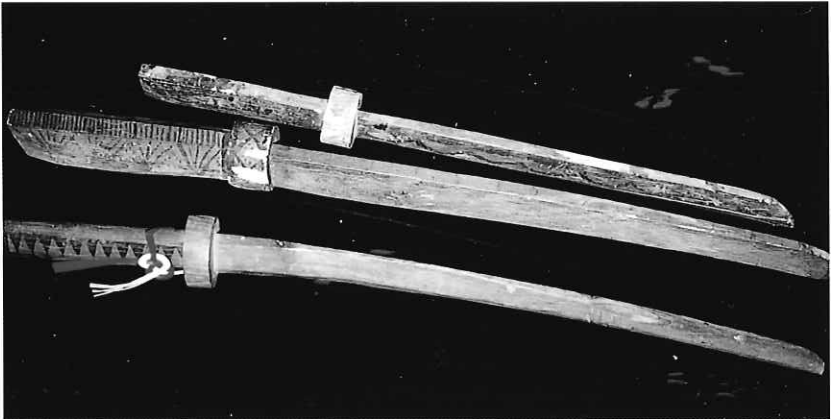
蓮華寺の賽の河原



押びな(金原)



森の太神楽



狐狩りの刀（羽入）



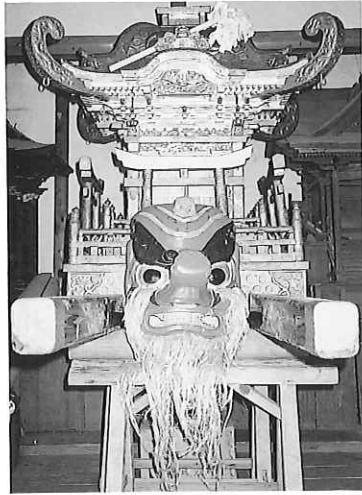
田久日のそうの声

田久日の盆小屋



盆小屋の内部





夏越の神輿と天狗面（東町・龍海寺）

小城十二所神社の懸け仏



（薬師如来）



（阿弥陀如来）



蓬萊（芦谷）



コトの箸（田久日）



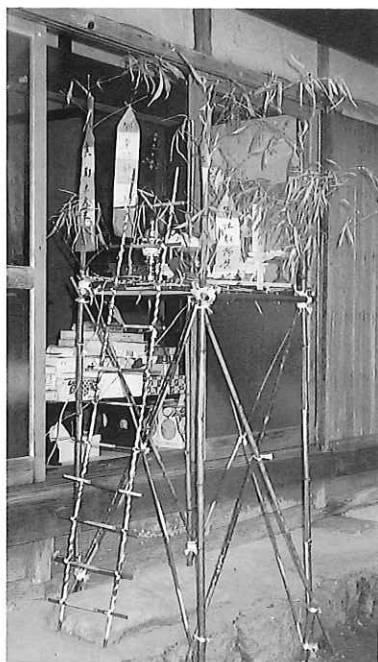
節分の送りドンド（小丸）



そもそも (轟)



轟地区の仏送り



芦谷のアラジョ棚



床瀬の狗留孫(尊)仏



市場の万灯



馬場町の百万遍念仏



三原のダブセ



船屋 (竹野浜)



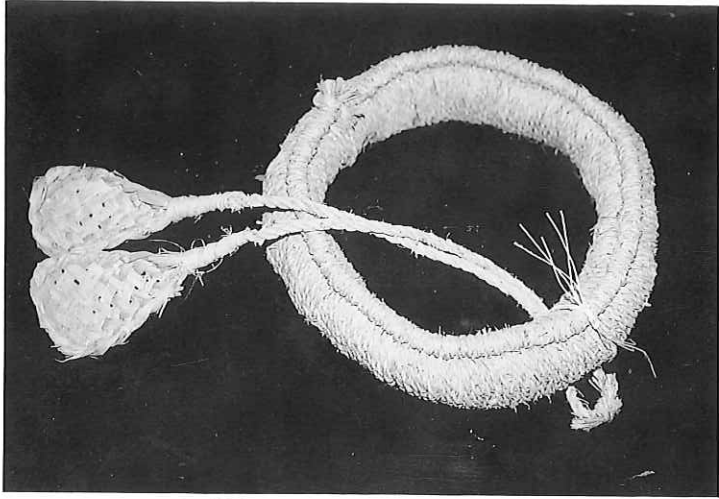
芋蒸し情景  
 (河内出身・達富寿夫「我古里」より)



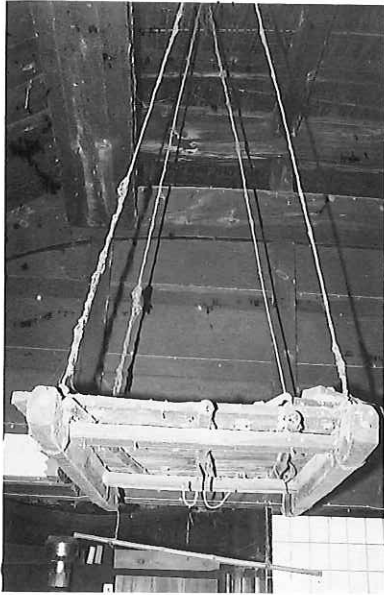
麻作り芋蒸しの芋桶 (須野谷)



芋蒸し鍋 (鬼神谷)



川の龍神に供えたなべ取りとなべ敷（羽入）



アマダ（小城）



豆腐作り（段）



オイコ (桑野本)



相撲甚句





森本のきょうせいさん踊



宇日の鯨・亀墓



節分の行事（羽入）



元小城の<sup>かしら</sup>人形首 (元小城、現関宮町・西村修氏蔵)

## 発刊のことば

竹野町長 山本 雅 康



歴史はあたかも流水の如くよどみなく流れ去り、繰り返し繰り返され新たな時を創造してまいります。

本町では平成二年に古代から現在までを集成した竹野町史（通史編）を発刊いたしました。このたび民俗・文化財・資料編を発刊することになりました。

私たちの現在は、古くから今日まで人びとの生活の中で残された多くの有形・無形の遺産の集積の上に存在しています。新しい文化形成のためにもこれら文化遺産を理解し、親しむことが大切です。

この民俗・文化財・資料編は、私たちの生活に深いかかわりを持ちながらも、社会情勢の変化や推移により、人びとの生活や記憶の中から忘れ去られようとしている習俗などでもできるだけ多く収録に努めたものであります。

どうか通史編とあわせて多くの方々に愛読いただきまして、「あたらしい地域づくり」の糧としてご活用くだされば望外の幸せです。

このたびの発刊にあたり、執筆、編集にご尽力いただきました委員の方々、並びに資料提供などにご協力いただいた各位に深甚なる感謝を申し上げ発刊のことばといたします。

平成三年三月

## 序 文

この巻は、民俗・文化財・資料の各編からなる。

なかでも民俗編に力が注がれている。このことは、私達が本町史にかかわりを持つようになった時からの主張であった。

近頃、歴史学のなかでも、次第に民俗学は重きをなしてきている。それに、一般民衆の生活には、もつとも密接した分野でもある。これを専門とする私達には、これまでの但馬の市町史が、この点を重視していないことに、もどかしさを感じていた。

今回、五来重先生門下の私達が、力を合わせここに一つの成果を出し得たことは、大きな喜びである。しかし、先生からみられると、足らない個所が多いと思う。このことは、私達の反省点でもある。

また、私が十数年前に、竹野町全域を、葬制と花祭とを追って二度歩いたことがある。今回、また回ってみると、すでに行なわれなくなっていることが多く、時代の変転を強く感じさせられた。この点を考えてみると、本町の民俗を書き留めたということは、これから時代が経った後、参考になることが多いものと思う。

私達が、民俗調査に歩く時、行く先々の人々が、私達の先生なのである。今回も、いろいろの方々に教えて戴いた。冬の雪の深い山々を案内してくれた方々、台所でこたつにあたりながら、自分の知っている昔のことをとつとつと語ってくれた方々、今になるとなつかしく思い出される。皆、自分の住む土地に思い出と愛着とを持つ人々ばかりであった。この人々に、その意義と歴史を語ってあげると、非常に喜んで下さった。こうした意味で、本書が竹野に住む人々に少しでも役に立つところがあれば有難いと思う。

なお、この調査を進めているなかで、感銘深いことがあった。芦谷の故安谷重行氏の『安谷家伝記行事習慣篇』は、今回、執筆者が多く利用した貴重なものであった。私は昭和四十年のころ、竹野を調査して回り、同家にはたびたび訪れた。卯月八日の天頭花の調査にも行った。同氏は博学で、竹野町ではすぐれた伝承者でもあった。実はその時の調査がきっかけとなり、同記録を書き残すことにした、とその序文にある。本記録は、盆行事で終わっているが、しかし、何といても、竹野町では、貴重な年中行事に関する記録であり、それには私の調査がきっかけとなっている。

思い起こすと、直接、私達が竹野町史にかかわりを持つようになってから、八年を経ている。私達執筆者の中にも、いろいろの変動があった。それを、皆が心を合わせて最後まで頑張つて下さった。深く感謝の意を表する次第である。なかでも菊池武氏は、いつも中核的存在となり、活動していただいた。去年（平成二年）「通史編」を出し、引き続き本書の刊行である。いろいろの仕事

を後回しにして努力して戴いたものと思う。

さらに、井垣克巳教育長はじめ教育委員会の各位、山本祐雄編纂委員長をはじめ地元の執筆者の各位、ならびに町史編纂室の一同、さらには調査に協力して下さった皆さんに深い感謝の意を表する。

これで、この大役をやつと終えることが出来て深い安堵をおぼえるとともに、自然と伝統につつまれた竹野町が、いつそう栄えることを心からお祈りする。

平成三年三月

監修者 日野西 眞定

## 凡 例

- 一、この巻は、竹野町史の「民俗・文化財・資料編」である。
- 一、本文の記述は、原則として常用漢字、現代仮名遣いを用いた。ただし、歴史用語・学術用語・固有名詞などは、これによっていない。
- 一、年号は、日本年号を使い、明治六年までは一応陰暦で表し、原則としてその下の（ ）内に西暦年を付記した。
- 一、人名は、資料提供者を含め敬称を省略したところもあるが、各位には了承されたい。
- 一、読みにくい漢字、用語および地名には、なるべく初出のところで、ふりがなをつけるようにした。
- 一、民俗用語および動植物名については、カタカナ・ひらかな・漢字を適宜用いた。
- 一、写真・図・表には、それぞれ写1・図1・表1のように略記し、一連番号をつけた。また巻末に、写真・図・表の一覧表を添えた。
- 一、本巻の執筆分担は巻末に掲載した。
- 一、本巻の編集にあたって協力いただいた方の名を伝承者・協力者名簿として巻末に掲載した。
- 一、本巻のうち、一部に差別用語の記載があるが、内容を明らかにするため、原文のまま収めた。



# 民俗編

## 第一章 総論

### 第二章 衣・食・住

#### 第一節 総説

#### 第二節 衣生活

(1)	晴れ着				16
(2)	普段着	サンヤギ・産着と宮参り	年祝いの着物	結婚式	14
(3)	仕事着			葬式	
(4)	下着			盆・正月・祭り	
(5)	雨具・防寒具				
(6)	履物				
	足袋				
	履物				
(7)	夜具				
	布団	枕	ねまき		

第三節 食生活

- (8) 衣料・染料・織機・仕立て  
衣料 染料 織機 仕立て
- (9) 洗濯
- (10) 衣類などの保管
- (11) 髪型と化粧
- (12) 衣類に関する俗信  
洗濯をしてはいけない日 仕立てについて

第四節 住生活

- (1) 日常の食事  
一日の食事 炊事 食器 主食 副食 調味料 弁当 嗜好品  
保存食・救荒食
- (2) 晴れの食事  
餅 粥 団子 ぼたもち 赤飯・小豆飯 行事食
- (3) 食に関する俗信・慣習
- (4) 民間医薬  
植物性薬物 動物性薬物
- (1) 屋敷

(2) 母屋

屋根 柱 間取り

(3) 付属小屋

小屋 ヘヤ 木小屋 便所 風呂 土蔵

(4) 火

火のつくり方 燃料 暖房用の火 照明用の火 神仏の灯明

(5) 水

建築儀礼

地鎮祭 チョウノウ始め 石場つき タテマエ 家移り

第三章 生産・労働と分配

第一節 総説

第二節 農業

稲作 畑作 焼き畑 山人(山仕事) 虫送り 年占い コトノハシ

サビラキ・サノボリ 水口祭り 穂掛け 刈り上げ祭り(鎌祝い・カリゴメ)

亥の子

第三節 漁業

海の信仰

85

78

74

74

船霊信仰

船霊様の作り方・納め方

俗信(禁忌)

慣行・祭祀

海と怪火

焼火権現信仰

海と黄帝信仰

第四節 製 塩

竹野浜の製塩

竹野自給製塩組合

第五節 林 業

植林と山仕事

山林の情況

山焼き

植林

下草刈り

枝打ち

間伐

伐採

その他の山仕事

信仰と伝承

山の神信仰

第六節 狩猟・川漁

狩猟文化

狩 猟

兎猟

狸猟

猪猟

狩猟伝承

川 漁

鮭漁

鮎漁

蟹漁

その他の漁法

釣漁

第七節 炭 焼 き

炭焼竈の種類と築造

種類と築造 炭焼道具

木炭の種類と製法

白炭 黒炭 穴竈

信仰と伝承

第八節 牧

畜

但馬牛 牛飼い子 牛に関する信仰と講

第九節 養

蚕

竹野谷の養蚕 飼育と労働 養蚕と信仰

第十節 染・織

染屋 機織り(麻)

第十一節 手工業

紙漉 傘骨製造 提灯作り 杞柳作り

第十二節 鉱業(鉱山)

竹野谷鉱山の盛衰

第十三節 諸職

大工 木挽 屋根葺き(屋根屋) 木地屋 青井石工 水山砥石 酒造

第十四節 共有地と占有地

140

133

132

127

125

122

119

	入会山	入会漁業	
第十五節	労働		142
	内職	休み日	
		出稼ぎ	
		日役	
		分配	
第四章	交通・運搬と交易		149
第一節	総説		149
第二節	交通	陸の交通	151
		海の交通	
		川の交通	
第三節	運搬	人力運搬	165
		畜力運搬	
		自然力運搬	
第四節	交易	市	171
		行商	
		買い出し	
		定便	
		物々交換	
第五章	家族制と村落		181
第一節	総説		181
第二節	家族	戸主権と主婦権	183
		二、三男と女子	
第三節	相続と隠居・新宅		186

第四節 同 族  
相統 隱居 新宅(分家) 地神から同族神へ

本家と新宅(分家)

189

第五節 村 落

農村・山村・漁村 親方と子方 擬制的親子関係 隣保と寄合

村規則と制裁

191

村の共有財産 地芝居

第六節 年齢集団

(1) 子供組

子供組と年中行事 子供組の役割

203

(2) 若衆組

若衆入り 若衆組の規則と制裁 若衆宿 若衆組の機能 若衆組の変遷

(3) 娘 組

娘組と娘宿

(4) 大人組

戸主と大人組

(5) 姐衆組

主婦と姐衆組

(6) 年寄組

第六章 信仰集団

219

第一節 総説

219

第二節 宗教講

220

(1) 神道講

伊勢講 愛宕講

祇園講

その他の講

(2) 仏教講

観音講 地藏講

金剛講

その他の講

(3) 民俗講

秋葉講 稲荷講

山の神講

行者講

その他の講

第三節 宮座

231

(1) オトウ（御頭）と座田

(2) オトウ（御頭）行事

第七章 通過儀礼

236

第一節 総説

236

第二節 産育

240



(1) 妊娠

子授け祈願 妊娠の報告 安産祈願 性別判断 妊娠中の禁忌

妊娠中の仕事 帯祝い 避妊・墮胎・間引き

(2) 出産

産屋 分娩 産婆 後産の始末 臍の緒 産湯 胎毒・胎便下し

産見舞い 足洗い 仕事・外出 食べ物の禁忌 出産に関する禁忌・俗信・呪法

水子供養 妊産婦の死亡

(3) 育児

乳付けと母乳 産着 名付け 産毛剃り 宮参り 食い初め 初節供

初誕生 拾い親と厄子 育児に関する俗信・呪法 紐落とし 育児としつけ

乳幼児の死亡

第三節 成年

一人前 名替え 力試しの石 夜ばい

第四節 婚姻

通婚圏 口固め・結納 出立ち 嫁入り道中 入家式 三三九度の杯

披露宴 氏神参り・町歩きと村役挨拶 尻はり

第五節 厄年と年祝い

三十三歳(女性) 四十二歳 六十一歳

281

272

267

第六節 葬制と墓制

(1) 葬制

死の予兆 枕飯 善光寺まいり フレと葬式にかかわる人 香典  
 同齡者の忌避 忌み 通夜 湯灌 納棺 葬式の呼び方 出棺  
 クイワカレ 葬式の行列 埋葬 火葬・土葬 仕上げの膳 墓直し  
 二日洗い 連夜 正月・祭に死者が出た時 ミチギリ 流灌頂 子供の葬式  
 竹野町を中心とする両墓制

285

第八章 年中行事

第一節 総説

第二節 正月の行事

(1) 正月行事

正月迎え 正月のかざり 元旦若水汲み 年取りの膳 その他  
 ことはじめ (正月二日) 寺の年頭 棚おろしと稲木おろし (正月四日)  
 六日の年越しと七日正月 どんど (正月七日) 年祝い 屋祈禱 山の神

335

333

333

第三節 春から夏の行事

稲木おろし（正月十一日） 狐狩り（または狐がえり） 嫁のしり祝い  
神送り（送りどんど） 念仏の口明け（正月十六日） 待ちごと（日待・月待）  
はったい正月（二十日）としまい正月（二十五日）

(1) 二月行事

節分（二月三日） 涅槃会（二月十五日） 初午（二月はじめの午の日）  
春の亥の子（二月の猪の日） 彼岸（二月春分が中心）

(2) 三月行事

三月祈禱 三月節供（ひなまつり、三月三日）

(3) 四月行事

卯月八日・降誕会（四月八日）

(4) 五月行事

五月の節供 八日花・花祭り 数珠繰り サオリ

(5) 六月行事

氷の一日・氷餅 男の節供 箸納め サノボリ（サナボリ） その他の六月行事

(6) 七月行事

田祈禱 はんげ（半夏）祭り 川すそ祭り（祇園祭り） 蛸薬師の祭り  
目の薬師の縁日 七月のその他の行事

第四節 盆行事（八月行事）

- (1) 盆の準備  
釜蓋朔日 七日盆 盆花採り
- (2) 盆（魂祭り）・八月十三日  
盆棚飾り 施餓鬼棚 仏壇飾り 墓参り 迎え火 仏迎え ネラミサバ
- (3) 盆・八月十四日  
墓参り 初盆参り 盆踊り 新精霊送り 六斎念仏 その他の行事
- (4) 盆・八月十五日、十六日  
村施餓鬼 仏送り 送り火
- (5) 数珠練り・百万遍念仏  
一月十六日の事例 五月八日の事例 一月十六日と八月十六日両日の事例  
八月十六日・盆過ぎの事例 観世音菩薩縁日の事例 地藏盆の事例 疫病流行時
- (6) 盆小屋
- (7) 地藏盆
- (8) 万 灯
- (9) その他の八月行事  
宮籠もり 観音講 観音さんの日 お大師さんの日

第五節 秋から冬の行事

(1) 九月行事

はっさく(旧八月朔日) いも名月(旧八月十五日) 附、豆名月

秋彼岸(秋分の日が中心)

(2) 十月行事

秋の亥の子

(3) 十一月行事

冬至(旧十一月の中の日) 霜月二十三日

(4) 十二月行事

乙子の朔日(旧十二月一日) 八日吹き(旧十二月八日)

第九章 民間信仰

第一節 総説

第二節 呪術

(1) 節分と呪術

鬼の目突きと豆撒き 豆送り 虫の口封じ 成木責め

(2) 医療呪術

目ぼ 疱瘡流し ソラデ イボ 風邪 寝小便 夜なき シャックリ  
疫病 重病の時 歯が抜けた時 その他

(3) 農耕に関する呪術

雨乞い 虫送り 虫除け

(4) 葬に関する呪術

(5) その他の呪術

産に關して 履物おろし 蜘蛛に關して 刃物に關して 漁に關して

ドンドの火・灰 ユミの藁縄 願ほどき 縫い初め 祈り釘

(6) 呪文

火伏せの呪文 口の中に腫物が出来た時の呪文 山に入って蛇に会った時の呪文

蜂に刺された時の呪文 雷が鳴った時の呪文

第三節 占術

(1) 年占

天候占い 豊凶占い

(2) 予兆と天候予知

予兆 天候予知

(3) 夢判断

第四節 禁忌

(1) 産における禁忌

(2) 生業における禁忌

漁業 農業 山仕事

(3) 日常の禁忌

第五節 巫 覡

(1) 役割と内容

(2) 巫覡の種類

(3) 巫覡の医療呪術

カンの虫封じ その他の病気

(4) 託 宣

(5) 口寄せ

(6) 巫女の実際

入巫 口寄せ 託宣 護摩加持と鳴釜

第十章 民間宗教

第一節 総 説

第二節 民間神道

(1) 町内の神社

(2) 堂宇・小祠

愛宕信仰

海上信仰

稲荷信仰

弁天信仰

その他の籠堂・小祠の信仰

448

446

446

440

第三節 民間仏教

(1) 町内の寺院

(2) 諸尊・諸仏

近世の堂宇の分布 諸尊・諸仏の信仰と伝承

(3) 大般若経信仰

大般若経の読誦 十二所神社の大般若経

(4) 仏教信仰と遺物・伝承

賽の河原石像十界曼荼羅 轟の蓮華寺境内の大師堂と四国巡礼札 百万遍念仏

回国供養塔 念仏供養塔 光明真言一百萬遍供養塔 名号供養塔 萬靈供養塔

納経・回国・巡礼・読誦供養塔 六地藏 その他

第四節 山岳宗教と修験道

狗留孫仏と桃溪甫仙和尚

床瀬の狗留孫仏 狗留孫仏と桃溪甫仙和尚 山岳修験と狗留孫仏

第五節 陰陽道

陰陽道と陰陽師 陰陽師の宗教活動 陰陽道の残存 陰陽道の勸進活動

他から入り込みの勸進陰陽師 陰陽道の現況

第六節 巡礼・霊場巡り

(1) 但馬および竹野町に跨がる巡礼・霊場巡り



国中巡礼と但馬国六拾六所地藏順礼

(2) 竹野町地域の巡礼・霊場巡り

竹野地域の巡礼・霊場 蛇々山公園内の三十三所観音霊場

蓮華寺境内の西国三十三所観音霊場と四国八十八カ所

大寧寺裏山の但馬六十六カ所地藏尊 賀嶋山新四国霊場

(3) 六十六部の廻国行者

要七の廻国 町内の六十六部供養塔

第七節 祭祀

(1) 海岸部・漁村の祭祀

(2) 山村部の祭祀

552

第十一章 民間芸能

第一節 総説

第二節 風流太鼓踊り

568

(1) 但馬地方の風流太鼓踊り

(2) 轟の太鼓踊り

踊りの成立年代 太鼓踊りと死者供養 太鼓踊りの構成・衣装

太鼓踊りの芸態

561

561

太鼓踊りの踊り唄

第三節 獅子舞

(1) 但馬地方の獅子舞

(2) 轟の太神楽

森神社の祭礼

そもそもの芸態

太神楽の芸態

女形の道中の復活

576

第四節 盆踊り

(1) 竹野地方の盆踊り

(2) 手踊り型盆踊り

(3) 太刀振り型盆踊り

(4) 盆踊り唄

588

第五節

新保広大寺踊り

(1) 新保広大寺節の伝播

(2) 森本のきょうせんさん

踊りの由来 踊り役の構成・衣装 踊り唄

(3) その他の地区のきょうせいさん

600

第六節 三番叟

(1) 但馬地方の三番叟

(2) 宇日神社の三番叟

成立時期 伝播経路 衣装

606

第七節 地芝居

第八節 放浪芸

旅芝居 太神楽 万才 胡弓弾き・猿回し・人形まわし

610

第九節 座敷芸

鯛釣り きょうせいさん 俄・浄瑠璃踊り

612

第十節 民間競技

(1) 相撲

場所 土俵と四本柱 参加者 行司 取組み 中入り

617

(2) 力石

場所 石 持ち上げ方 時期

(3) その他の力くらべ

ねじり棒 棒押し 棒引き

第十一節 民謡・俗謡

628

(1) 仕事唄

農作業唄 土木作業唄

(2) 祝儀唄

嫁入り唄 棟上げ祝いの唄

(3) 俗謡

(4) 行事唄

第十二節 子守唄・童唄……………632

竹野谷の子守唄 竹野谷の童唄 子守唄・童唄の伝承

第十二章 遊 戯……………640

第一節 総 説……………640

第二節 大人と遊戯……………641

竹野谷の大人の遊戯

第三節 子どもと遊戯……………644

竹野谷の子どもの遊び 遊びのいろいろ 遊びと食べ歩き（おやつ） 遊びの役割

第十三章 方 言……………654

第一節 総 説……………654

(1) 方言について

(2) 竹野町方言の位置について

第二節 竹野方言のアクセント……………657

第三節 竹野方言の特徴……………659

(1) 語彙について

第四節 語彙

- (2) 多様さについて
- (3) ン表現について
- (4) 音声について
- (1) 「食」に関する言葉
- (2) 「農業」に関する言葉
- (3) 「漁業」に関する言葉
- (4) 「地勢・気象」に関する言葉
- (5) 「人体」に関する言葉
- (6) 「衣・住」に関する言葉
- (7) 「遊び」に関する言葉
- (8) 「人称」に関する言葉
- (9) 「挨拶・社交」に関する言葉
- (10) 「感情等」に関する言葉
- (11) 「人事」に関する言葉
- (12) 「動作とその形容」に関する言葉
- (13) 「経済・勤怠・職業等」に関する言葉
- (14) 「時間・空間・数」に関する言葉

(15) 「動物・植物」に関する言葉

第五節 竹野方言地図について

684

第六節 竹野方言寸感

687

温和 侮罵語

古語

言葉は長い歴史の所産

第十四章 地名

690

## 論文編

一、竹野町の平家落人伝承

711

二、昔話「舌切雀」地獄巡り型の背景―竹野町の事例をめぐって―

757

三、竹野海岸の漁業―無動力船時代（明治期）の漁業を中心にして―

769

# 文化財編

## 一、絵画・彫刻

総説

竹野町内寺社の絵画・彫刻

随音寺

満願寺

蓮華寺

円通寺

西照寺

観音寺

金亀院

両界院

少林寺

龍海寺

興長寺

大寧寺

長養寺

十二所神社

## 二、石造物

竹野町の石造物

石造物の調査・研究の意義

石造物の種目

863

863

816

811

811

中世石造物

五輪塔

板 碑

864

一石五輪塔

石 幢

宝篋印塔

考 察

近世石造物

石灯籠

名号塔

891

石 階

胎藏界大日真言塔

石鳥居

廻国供養塔

狛 犬

巡拜塔

手水鉢

四十八夜念仏供養塔

宝篋印塔

光明真言供養塔

石 仏

経典供養塔

六地藏

道 標

三界万霊塔

その他

三、県・町指定・町指定外文化財

まえがき

文化財と法律

文化財の意義

922

922



県指定文化財

竹野町文化財保護に関する条例

県・町指定の文化財

- 1、行道面
- 2、はさかり岩
- 3、絹本淡彩月庵宗光像
- 4、波食甌穴群
- 5、宇日流紋岩の流理

町指定文化財

- 1、段の白滝と河床
- 2、絹本彩色伯英徳俊和尚全図
- 3、狛 犬
- 4、桑原神社の大イチョウ
- 5、おまき桜
- 6、飾千石船
- 7、飾千石船
- 8、須恵器窯跡
- 9、須恵器窯跡出土器
- 10、轟太神楽
- 11、古墳横穴式石室
- 12、蓮華寺賽の河原
- 13、絹本切金著色大日如来画像
- 14、絹本切金著色愛染明王画像
- 15、木造聖観音菩薩立像
- 16、木造十一面観音菩薩立像
- 17、石 棒
- 18、荆木山観音寺宝篋印塔
- 19、興長寺熊野堂(金毘羅大権現)の船絵馬
- 20、鷹野神社の船絵馬
- 21、細田邸庭園

- 1、阿弥衣
- 2、観音寺蔵六部の笈
- 3、柴栗山睨満の碑
- 4、宇日神社の彫刻
- 5、相撲甚句
- 6、色来神社の檜
- 7、狗留孫仏の巨岩
- 8、丈山城跡
- 9、三原村のタタラ跡
- 10、川南谷村のタタラ跡
- 11、古墳群（阿金谷・和田）
- 12、縄文・弥生土器出土地
- 13、鋳物師戻峠の大岩
- 14、平家落人伝承地
- 15、青葉城跡
- 16、段の鉾山跡
- 17、鬼神谷の鉾山跡
- 18、轟の鉾山跡
- 19、東大谷の鉾山跡
- 20、奥須井の鉾山跡
- 21、文楽かしら

## 資料編

### 一、考 古

二、中 世 ..... 976

金亀院・両界院文書 ..... 976

三、近 世 ..... 987

1、庚申待縁起 ..... 987

2、安谷清家文書 ..... 991

3、勤求候年中寺役之覚 ..... 1000

4、遊行上人御通行諸日記 ..... 1003

5、竹野浜北前船関係史料摘要 ..... 1015

四、民 俗 ..... 1024

1、竹野相撲甚句 ..... 1024

2、轟太鼓踊り(さんざか踊り) 踊り歌本 ..... 1031

参考文献一覧 ..... 1038

竹野町全図 ..... 1041

あとがき	1043
竹野町史執筆分担一覧	1046
竹野町史編纂委員会委員名簿	1048
専門委員名簿	1049
竹野町史編纂担当事務局	1050
伝承者・協力者名簿	1
写真・図・表一覧	1